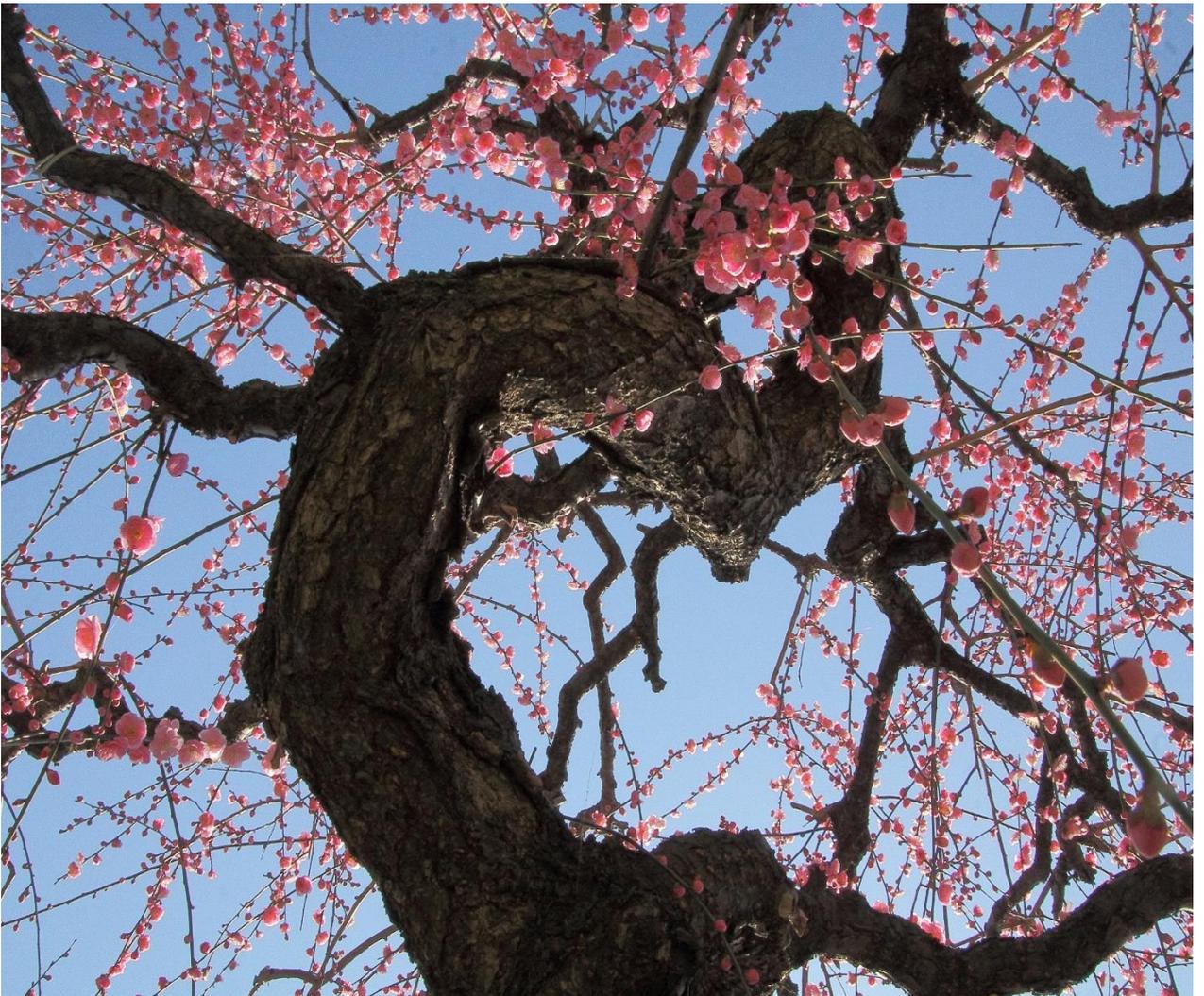


花水木だより

第95号 令和4年2月
千種区鯉城会会報
発行／花水木鯉城会



〈 花水木鯉城会の輪を拓げよう 〉

目次



表紙	1
目次	2
新年あいさつ 運営委員会	3～4
新年懇親会報告	5～6
第18回 趣味の作品展	
総括／ネット作品展	7
作品展写真集	8～11
出展作品目録	12～13
千種区社会福祉協議会での展示	14
同好会だより	
ハーモニカ同好会の立ち上げ	14
地域会だより	
若水・振甫地域会の見学会	15
今池地域会の体験会／ボッチャ広めたい活動	16
東星地域会の歴史話題	17
取材記	
コーヒーサロンサークル／公園清掃活動	18
キラキラサンタ活動／編集後記	19
今後の行事予定・次号予告（裏表紙）	20



表紙の言葉 「しだれ梅」

相場 彰史（22期 文化A）

毎年春になると私たちを楽しませてくれる、農業センターの「しだれ梅」です。

今回は角度を変えて下から見上げて撮ってみました。

青空を背景に老木が「お前も頑張れ」と言っている様でした。

花水木鯨城会 運営委員会 新年あいさつ



会 長 小松 憲次 (32期 美術)

新年明けましておめでとうございます
ご家族お揃いで新しい年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。昨年はコロナ禍により様々な活動に影響を受けました。

本年は「出来ない理由を言う前に、どうしたら出来るのか」を思考し考動するチャレンジの年として取り組みます。光明の見てきた本年こそ、「実りある花水木鯨城会」を、会員の皆様と一緒に作り上げて行きたいと思えます。ご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。

皆様のご多幸を心から祈念し、新年のご挨拶とします。

総務委員会

委員長 高橋 満里 (30期 環境)

梅の開花が待ち遠しい季節になりました。
今年は総務にもう花は咲いています。鮮やかな大輪の花です。女性が3人集まると凄いパワーを生み出します。折角仲間になりましたので、男性のTさん、Fさんも交え、楽しく大きな声で笑える1年になります様に。



会計委員会

委員長 木村 達哉 (31期 地域A)



会計委員会は総勢3人ですが地味に活動しています。
コロナ禍は収束の兆しが窺えませんが、今年が良い年にしたいと思います。今年度末決算も迫ってきましたが、引き続き円滑な予算執行に努めてまいります。
本年もよろしく願いいたします。

広報委員会

委員長 大澤 之夫 (32期 陶芸)

「花水木だより」などを通じて、会員の皆様に出るだけ多くの「貴重なおしらせ」「有益な情報」「楽しい話題」を提供したいと思っています。

皆様が大活躍して多くの記事を投稿してくださる年になる様に祈っています。



副会長 二宮 敏夫 (30期 福祉)



コロナに負けず、チャレンジして行きましょう
昨年もコロナウイルス感染拡大でボランティア活動や各種行事の中止が余儀なくされた中で、デイサービスや公園清掃などの活動にご協力をいただきまして厚くお礼を申し上げます。今年も、鯉城学園の卒業生がいないため、新規会員は望めませんが、新しい行事（バーベキュー、ボッチャなど）も検討して参りたいと思います。

会員皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



社会奉仕委員会

副会長・委員長 樫澤 一也 (31期 生活B)

体力、財力、知力、時間、皆さん何か余分にお持ちの力はありませんか？

それを無償で提供するのが社会奉仕のこころです。

当委員会は決して力持ちではありませんが、その“こころ“を大切に、今年も余力を、おすそ分けするつもりです。



行事委員会

委員長 南 清貴 (31期 園芸)



昨年もコロナに翻弄され、鯉城学園も休校2年目と、卒業生受け入れ無し、行事委員長留年と、厳しい年でした。

その中で、第18回作品展と地域会対抗ボーリング大会を、皆様のご協力のお陰で無事終えることが出来ました。

本年もコロナ感染に配慮しながら、可能な限り安全運転で行事の遂行に努める所存です。宜しくお願いします。

花水木鯨城会 新年懇親会報告

広報委員 桑原 守 (32期 地域A)

日時：令和4年(2022) 1月7日(金) 12:00 - 14:00 場所：木曾路 瓦町店

花水木鯨城会は4月で創立32周年目を迎えます。一昨年の総会では、創立30周年記念式典と懇親会の同時開催も企画されたが突然のコロナ禍で中止になり、昨年の総会も中止になりました。一旦は終息の気配が見られたコロナだが、新たに第6波の到来が懸念されます。運営委員会では状況を注視しながら新年会の準備は続け、今回は開催可能と判断しました。会員256名に案内したところ74名の方から参加連絡を受けました。

各地域会からの参加者内訳は、今池13名、振甫13名、若水11名、城山13名、東星5名、千種台11名、千種8名で、卒業年次では、16期から33期の方々が参加されました。なお、コロナ禍で34期の卒業生はいません。

懇親会は高橋総務委員長が司会し、小松会長の挨拶で始まった。会長からは、コロナ禍による活動制約は続くと思いつつも、魅力ある活動を創出して会の隆盛に努めるとの決意と要望が述べられた。アルコールは宴会の冒頭だけに限定され、乾杯の発声は二宮前会長が担当した。会場側からは、感染防止のための広い部屋、透明シールド板の設置、ソーシャルディスタンスを考慮した座席配置にご配慮頂いた。



小松会長



高橋司会



二宮前会長



会場全景

しばし歓談の後、「花水木鯨城会 30年の歩み」と題するスライドが上映されました。これは30周年行事として令和2年度総会時に上映予定だったスライドショーで、大村委員(30期)が作成しました。花水木鯨城会の30年の歴史が「花水木だより」と会員の皆様に頂いた120枚の写真で編集され、約15分の上映で紹介されました。



大村広報委員



スライド例(趣味の作品展)



スライド例(広報誌)

続いて、男性4名による音楽演奏を楽しんだ。アンサンブルリーダーの小出氏（右から2人目）は本会32期生で、他のメンバーにも賛助出演して頂いた。懐かしい和洋5曲の名演奏に会場の雰囲気は和み、大拍手はアンコール演奏を求めました。



アンサンブル「クレッシェンド」の演奏

会場の雰囲気は次のマジックショーで頂点に達した。演者は大澤広報委員長と2名の女性運営委員（坂野さん、間淵さん）。演目は新年に相応しい紅白の色合いやお年玉に関する内容等で、高度の技や観客との軽妙な掛け合いには、日頃のボランティア活動での活躍が伺われました。



花水木マジック隊「ゲー・チョコキ・パー」の演技

コロナウイルスの懸念が完全には払拭されていない状態での新年会でしたが、運営委員会での綿密な企画と準備は功を奏したように思われます。ほぼ2年間に亘って活動の自粛が続いていたが、参加者の顔には忘れかけていた笑顔が戻っていました。



今池



若水



城山



千種台・東星



東星・千種台



振甫



千種



運営スタッフ

テーブル毎の懇親風景

三密防止の観点から出席者全員での集合写真は撮れなかったが、地域会等の単位で着席したテーブル毎のスナップ写真を掲載しました。紙面に限りがあり、出席者全員のお顔が判別できないことはご容赦下さい。



お年玉抽選会



檜澤副会長

会の最後には、大判振る舞いで用意された20点の景品をもとに、お年玉抽選会が催されました。

閉会の辞で檜澤副会長は、新年会が中止を含めた選択枝の中で綿密に準備されたことや、4月の総会の開催への期待感等を述べました。最後に、小松会長の一本締めで新年会は終了しました。

第18回 趣味の作品展

行事委員長 南 清貴 (31期 園芸)

開催期間 令和3年10月12日(火)～10月17日(日)
会場 愛知芸術文化センター12F アートスペースH



「第18回 趣味の作品展」は上記の6日間開催されました。本年も猛威を振るうコロナ禍に翻弄され、鯉城学園は休学。ほとんどの行事が開催中止となり、作品展も厳しい状況の中で、54作品の出品、延べ448人の観覧をいただき、無事終わることが出来ました。芸術文化センター12階は、期間中好天にも恵まれ、空中庭園からのやさしい光が作品展に彩りを与えてくれました。会員の皆様の芸術魂は健在で、諸活動自粛の中、鍛錬の結晶・力作に取り組んで頂きました。誠に有り難うございました。また、千種区社会福祉協議会・デイサービスの方々も作品を出展して花を添えて頂きましたこと、感謝申し上げます。

作品展を通じ、交流の輪が生まれ、花水木鯉城会の発展の一助にもなればと、主催者として祈念する次第です。



ネット作品展のご案内

総務 IT担当 古田 昇 (31期 地域B)

「ネット作品展」は、令和4年も通年で、ご覧になれます。

本号に掲載の「趣味の作品展」と同時開催された「ネット作品展」は、今でもパソコン・スマホで、ご覧になることが出来ます。残念ながら昨年12月末で広告の入らないプレミアム掲示板から、広告が入る無料の掲示板に変わりましたが、一部の作品については、作者の紹介、作者の一言も掲載しています。スマホでアクセスしやすいQRコードは右の通りです。

頑張って作りました。ぜひ、ご覧になってください。



絵画

第 18 回 趣味の作品展 写真集



群れ雀
水野茂樹



廃墟
(足尾銅山、通洞動力所)
小澤一隆



霧の夜
新川光雄



ボンヤリ
田島弘康



晴れ着
山田秋男



桂浜の暁光
山田秋男



野菜
堀 照雄



参道 (本光寺)
竹倉 護



ピンズイ
岩田外次



光と影
高橋満里



インドに住んでる孫
高橋満里



揚輝荘「白雲橋」
小松憲次



白川郷
小松憲次



ラジオ体操
大澤之夫



ある日の雑木林
東山公園
坂野照夫



夏の野菜
波多野美津子

写真



flowers under the sun
波多野美津子



毛槍(けやり)
渡邊武通



花びら船
塚原義政



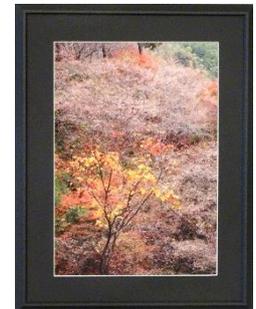
新疆ウイグル自治区
湖
加藤 勇



新疆ウイグル自治区
砂漠
加藤 勇



休憩時間
西原洋一郎



秋の彩色
渡邊孝子



晩秋の堀川
山本 一



火焰山を行く
久連石一彦



燃える火焰山
久連石一彦



コロナ禍の香流川
大島啓三



写真と共に俳句を詠む
彦坂茂光



2021年8月6日
午前8時15分
長坂幸広



愛岐トンネル群
後藤基之



笠新道から望む笠ヶ岳
古田 昇



出漁・梢から
桑原 守



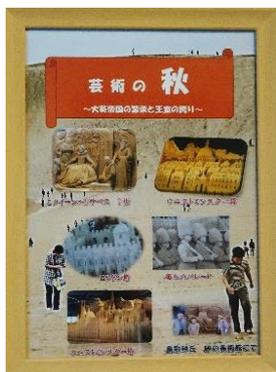
出漁・水辺から
桑原 守

パソコン
ペイント



風雲急 名古屋城
坂野照夫

陶芸



砂の芸術
榎澤征子



みらいへ
榎澤征子



カップ3種
山田秋男



うつわ
大澤之夫

絵手紙



椿のいろいろ
脇所 耐



花のいろいろ
脇所 耐

季節の絵手紙
古田 昇



好きな果物
脇所 耐

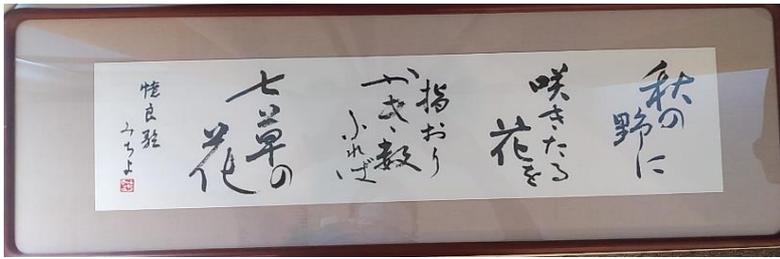
手芸品等

ファイル
中日新聞日曜版
大図鑑シリーズ
尾崎達男



花便り
花だより集3冊
尾崎達男





書
山上憶良歌
栗田みちよ



折り紙
楽しい折り紙
山田勝祥



ジオラマ
アニマル・クルー
(animal crew)
樫澤一也



木影
姿見
伊藤陽子



押花
花いっぱい幸せ
田中光子



ビーズ手芸
冬景色の
メリークリスマス
田中光子



押花
ふくろう一家
坂野幸子



押花
さる(猿)
坂野幸子

特別参加

千種区社会福祉協議会

なでしこ会 花と刺繍



ユーカーリーナの塗り絵
在宅サービスセンター



出展作品目録

絵 画

番号	期	学科	氏名	題名
1	20	文化 A	水野 茂樹	群れ雀
2	20	美術	小澤 一隆	廃墟（足尾銅山 通洞動力所）
3	22	陶芸	新川 光雄	霧の夜
4	25	陶芸	田島 弘康	ボンヤリ
5	26	陶芸	山田 秋男	晴れ着
6	26	陶芸	山田 秋男	桂浜の暁光
7	28	園芸	堀 照雄	野菜
8	28	美術	竹倉 護	参道（本光寺）
9	28	環境	岩田 外次	ビンズイ
10	30	環境	高橋 満里	光と影
11	30	環境	高橋 満里	インドに住んでる孫
12	32	美術	小松 憲次	揚輝荘「白雲橋」
13	32	美術	小松 憲次	白川郷
14	32	陶芸	大澤 之夫	ラジオ体操
15	32	美術	坂野 照夫	ある日の雑木林 東山公園
16	33	国際 A	波多野美津子	夏の野菜
17	33	国際 A	波多野美津子	f lowers under the sun



写 真

番号	期	学科	氏名	題名
1	19	美術	渡邊 武通	毛槍（けやり）
2	21	生活 A	塚原 義政	花びら船
3	21	福祉	加藤 勇	新疆ウイグル自治地区 湖
4	21	福祉	加藤 勇	新疆ウイグル自治地区 砂漠
5	22	文化 A	西原 洋一郎	休憩時間
6	22	生活 A	渡邊 孝子	秋の彩色
7	23	生活 A	山本 一	晩秋の堀川
8	24	地域	久連石一彦	火焰山に行く
9	24	地域	久連石一彦	燃える火焰山
10	26	地域	大畠 啓三	コロナ禍の香流川
11	27	文化 A	彦坂 茂光	写真と共に俳句を詠む
12	28	美術	長坂 幸広	2021年8月6日午前8時15分
13	29	健康 B	後藤 基之	愛岐トンネル群
14	31	地域 B	古田 昇	笠新道から望む笠ヶ岳
15	32	地域 A	桑原 守	出漁・梢から
16	32	地域 A	桑原 守	出漁・水辺から



出展作品目録(続き)

パソコンソフト

番号	期	学科	氏名	題名
1	32	美術	坂野 照夫	風雲急 名古屋城
2	33	健康 A	糊澤 征子	砂の芸術
3	33	健康 A	糊澤 征子	みらいへ

陶 芸

番号	期	学科	氏名	題名
1	26	陶芸	山田 秋男	カップ 3種
2	32	陶芸	大澤 之夫	うつわ

絵手紙

番号	期	学科	氏名	題名
1	29	生活 B	脇所 耐	椿のいろいろ
2	29	生活 B	脇所 耐	花のいろいろ
3	29	生活 B	脇所 耐	好きな果物
4	31	地域 B	古田 昇	季節の絵手紙



手芸品等

番号	期	学科	氏名	区分	題名
1	26	文化 A	尾崎 達雄	ファイル	中日新聞日曜版大図鑑シリーズ
2	26	文化 A	尾崎 達雄	花だより	花だより集
3	28	生活 A	栗田みちよ	書	山上憶良 歌
4	29	陶芸	伊藤 陽子	木彫り	姿見
5	30	福祉	山田 勝祥	折り紙	楽しい折り紙
6	31	生活 B	檜澤 一也	ジオラマ	アニマルクルー (animalcrew)
7	31	地域 B	田中 光子	押し花	花いっぱい幸せ
8	31	地域 B	田中 光子	ビーズ手芸	冬景色のメリークリスマス
9	32	地域 B	坂野 幸子	押し花	ふくろう一家
10	32	地域 B	坂野 幸子	押し花	さる(猿)



特別参加

出展 グループ	題名
千種区社会福祉協議会 (なでしこ会)	花と刺繍
千種区社会福祉協議会 (千種在宅サービスセンター)	ユーカリナーの塗り絵

千種区社会福祉協議会事務所でも展示

総務委員 IT担当 古田 昇(31期 地域B)

愛知芸術文化センターのアートスペースHで展示された作品のうち、絵画と写真が千種区社会福祉協議会の事務所壁面に展示され、同事務所を訪れた人々に鑑賞して頂きました。同事務所の方々には、折角の力作を出来るだけ多くの方に見て頂こうと、展示期間や展示スペースにご配慮頂きました。



展示期間は、令和3年11月2日(火)から12月24日(金)までとし、壁のスペースの関係で、3回に分けて展示を行いました。

おかげで、一般の方々やコーヒーサロンの開設時には、立ち寄られた一般のお客様にも、花水木鯉城会の活動の一部を知って頂く事が出来ました。

同好会だより

「ハーモニカ同好会の立ち上げ」



こんにちは、第32期文化Aの小出敏弘と申します。
この度、花水木鯉城会にハーモニカ同好会を立ち上げたく、以下の通りご案内いたします。

立ち上げ日 令和4年4月2日(土) (最初の練習日)

練習予定日 毎月第1・第3土曜日
(午後1時10分から2時50分)

会費 1,000円(毎月)入会金無し

持参品 C調ハーモニカ、筆記用具、譜面台
(持ってみえる方)

説明会 令和4年3月26日(土)午後1時30分より
内山コミュニティセンターにて
(ハーモニカお持ちの方は、ご持参ください)

連絡先 携帯 080 3624 2716 (小出敏弘)



以上 宜しくお願い致します。

地域会だより

若水・振甫地域会

笠寺観音/見晴台遺跡・考古資料館 見学会

振甫地域長：脇所 耐(29期 生活B)

暖かい穏やかな小春日和の、11月17日(水)、若水・振甫地域会の秋の行事として、名古屋城を中心に恵方が巡る、尾張四観音の一つ、笠寺観音・笠寺天満宮東光院の参拝と、笠寺台地にある、見晴台遺跡・考古資料館を見学しました。



今回は、若水と振甫の共同企画行事として、合計 27 名(若水地域会 14 名・振甫地域会 13 名)の参加者がありました。

東光院の木村住職から、笠寺にまつわる由緒沿革や、普段は一般公開されていない宮本武蔵の肖像画と、武蔵直筆の掛け軸

(南無天満大自在天神)を拝見させていただき、『「南無」の 2 文字を右文字で、「天満大自在」の 5 文字を(左手で)左文字と、両手で見事に書き分けており、更に最後の「天」と「神」の 2 文字には、梅の小枝も描かれています。

また、この自作の木刀は、樫の木で短めに作られたもので、二刀流の武蔵が、左手用に削ったとされています。一度実際に持ってみてください。』との説明を受けました。

また、南歴歩マイスターのボランティアガイド(水野さん、28 期・鈴木敏夫さん、32 期・山本俊治郎さんら 5 名)から、笠寺観音、笠寺一里塚、見晴台遺跡などの説明を受けました。



最後に、笠寺西門近くのデニーズで各自お好みのランチとコーヒーを頂きながら談笑して、午後 1 時半ごろ散会いたしました。かつての、高年大学在学時代の日本歴史・社会見学会さながらの秋の一日でした。



今池地域会

ボッチャ体験会 IN 今池地域会

今池地域長 福田由美子 (28期 福祉)

令和3年11月13日(土)午前10時より、内山コミュニティセンターで地域会を開催。ヨーロッパ生まれのパラリンピック正式種目のボッチャを、今池でやってみたいと、「CHIKUSA ボッチャ広めたい」の方々の指導で、初級入門編の体験をしました。全ての人と一緒に競え合えるスポーツの体験を通して親睦を深め、楽しいひと時を過ごしました。会員のほか内山老人会の方々との交流もでき、体験会は大成功でした。



ボッチャ広めたい活動

広報委員長 大澤之夫 (32期 陶芸)

今池地域会の体験会ははじめ「CHIKUSA ボッチャ広めたい」は、少しずつ活動の範囲を広げています。代表の花水木鯨城会・二宮副会長のもとメンバーも技術習得に努め少しずつ千種区のボッチャ普及に貢献できる状況になってきました。



2021年12月10日(金)千種生涯学習センター事業「ボッチャを体験しよう!!」のイベントにも全面協力、千種区役所の区政部地域力推進室スタッフも大勢応援に参加して、大いに盛り上がりました。今後、千種区全域にボッチャが広がって多くの方が健康になって幸せになって頂くとともに、花水木鯨城会の会員の皆さんも全員参加して下さり、元気で長生きして頂くことが「CHIKUSA ボッチャ広めたい」の目標です。地域会行事など、計画あればお知らせください。

東星地域長 浅野孝治（27期 地域）

○江戸時代

名古屋城の城下町から東に延びる道があり、高針方面への道と、一社（一色村、上社村、下社村）方面への分岐点を「追分」と呼んでいた。今の星ヶ丘交差点付近ですが、当時は人家もなく樹木が生い茂り、昼なお暗い所であった。

○明治～昭和

明治9年（1876年）西春出身の井上新氏（しんぺい）という人が、この一角に住み着いて開墾を始めた。明治41年（1908年）追分の西200mほどのところに、新氏の妻きくさんが、街道を行く人を相手に、流しそうめん屋を始めた。大正10年（1921年）夫妻の三男が北側に分家として出て、肥汲みに行く農民や岩崎の御嶽参りの人々を相手に、おでんやそうめんを売る茶店を出した。この藁葺きの店は、終戦当時までであったという。

昭和に入って井上家は6軒に増えたが、隔絶した地域で電気も通じていなかった。昭和6年（1931年）東邦ガスが分譲住宅を建設する目的で、一社境の山林や畑を買収、ようやく電気も通じた。しかし戦争の為、分譲住宅は建てられず、戦後になって、その大部分を愛知淑徳学園に売却。

○昭和（戦後）

戦後、追分周辺の山は伐採され畑になったが、すぐに都市化の波が押し寄せた。

昭和31年（1956年）から、住宅公団がこの地に団地を造り始めた。それまで、このあたりの地名は「千種区田代町字瓶杓（※）」であったが、公団の計画時点で、もっと親しみやすい名前にしたらどうかという議論がされ「星ヶ丘」と名付けられた。当時、名古屋市住宅公団の中で、一番高い所にあり、「星にもっとも近く、輝く、星の美しい丘」の意味を込めていた。

（当時の団地は老朽化が進み、1900年代の終り頃、全面的に建て替えられ現在に至っている）

昭和34年（1959年）には、東山公園～星ヶ丘に市電が開通。ただ、この市電はその後の地下鉄工事の為、わずか2年で廃止になり、地下鉄開通まで「代用バス」が走っていた。昭和42年（1967年）星ヶ丘まで地下鉄が開通。2年後藤が丘まで延伸。同じ頃、東名高速道路も開通して「星ヶ丘」は名古屋東部の要衝に発展した。



（※）田代町字瓶杓・・・昔の田代町字瓶杓は範囲が広く、星ヶ丘北方の丘陵から東は名東区との境、南西は東山動植物園の上池あたりまでであった。現在でも千種図書館、東山スカイタワー、東山動植物園の敷地の一部に、この地名が残っている。

“コーヒーサロンサークル”

広報委員長 大澤之夫 (32期 陶芸)

花水木鯉城会コーヒーサロンサークルは昨年7月に新発足、半年を経過しました。千種区社会福祉協議会の研修室のスペースを利用させて頂き、一般の皆様の交流の場として、活動が軌道に乗ってきました。常連のお客様もできスタッフ一同接客に追われ、やりがいを感じています。また昨年11月には活動に関心を持った「中日新聞社」編集局社会部の土屋晴康記者が訪れ、二宮副会長が取材に



応じました。コーヒーサロンは、最近の世情の中で、人と人との繋がり場の場所を提供する、ボランティア精神が、新聞記事になったようです。

またみんなでコーヒー飲める

60歳以上の人たちが学ぶ市高大学鯉城学園を卒業した千種区民でつくる「花水木鯉城会」が、同区西崎町2の同区在宅サービスセンターでコーヒーサロンを開いた。新型コロナウイルスの影響で、昨年からは中止が続いたが、地域住民らが4日、コーヒーを手に世間話に花を咲かせた。

地域に交流の場をつくりたいと、花水木の有志らが約10年前から月2回、ボランティアで続けている取り組み。もとは、同センターのデイサービス利用者を対象にしていたが、現在は一般にも開放している。

昨年からは続くコロナ禍で開催できない時期があったが、10月からようやく平常通りに。二宮敏夫副会長(73)は「顔を合わせる機会がなく、みんなどうしているか気掛かりだった。またこうして会

千種区の有志運営 交流の場 平常通りに



えるようになって良かった」と話す。

この日も次々と高齢の来場者が訪れ、コーヒーを飲みながら、蓄音機から流れる昭和の歌謡曲や会員による手品などを楽しんでいた。次回は19日。午後0時半～2時。コーヒー1杯50円。☎千種区社会福祉協議会=052(763)1531

2021年(令和3年)11月13日中日新聞

コロナ禍でも公園清掃

茶屋ヶ坂 第3公園愛護会 会長 脇所 耐 (29期 生活B)

「オミクロン株」蔓延の勢いが止まらない昨今ですが、屋外でのボランティア活動でもある、「茶屋ヶ坂第3公園」「鹿子公園」の清掃に毎回10名前後の会員の皆様に参加し頂いています。時にはご家族から清掃活動を辞退するように言われたとのご意見も耳にしています。それぞれのご判断が有りやむを得ないと真摯に受け止めています。



また自宅にいと体がなまるので、屋外活動で「マスク着用」の上、「三密」にならないのであれば、参加しても良いという方もおられます。参加者の皆様方には、可能な限り、慎重に活動していただいております。係として感染対策も出来る限りしていますが、お陰様で「皆さんの活動で公園が綺麗になりました。利用者の皆さんから、公園が美しくなり有り難い」との声も頂いています。会員の皆様、可能な限り慎重に参加してください。

キラキラサンタ活動

広報委員長 大澤之夫 (32期 陶芸)

昨年末、千種児童館その他で、キラキラサンタの催事があり、花水木鯨城会の会員の方々が、サンタクロースとして、活躍されました。



写真は12月19日(日)児童館にて、出演は石山恒明さん(30期 地域B)。花水木鯨城会の「キラキラサンタ活動」に対して、千種区社会福祉協議会の小崎恵子会長から、下記の様なお礼状が届きました。

『花水木鯨城会のご協力を頂いたお陰で、どの会場も大変賑やかなものとなり、サロン主催者及び参加者から、とても楽しかったとの声を多数頂くなど大好評のうちに終わることが出来ました。本会として今後も、様々な事業に取り組んでまいりますので、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。』

なお実績として、ご協力会場数、12会場(子育てサロン7、保育園3、児童館2)ご協力者数は、延べ16名との報告も頂きました。

編集後記

昨年は、コロナ禍の影響を受けて、数々の行事・活動が中止となり、花水木鯨城会の会員の皆様も自粛の日々が続きました。そんな中、何とか花水木鯨城会を盛り立て会員の皆様に元気になりたいとの願いから、厳重な感染対策を実施して、徐々に行事の再開がされました。ボーリング大会に続いて、念願の「趣味の作品展」が開催されましたので、花水木だより95号にて、その内容を紹介しました。諸事情で会場に来られなかった方々の為、「ネット作品展」という形で、作品展の雰囲気味わって頂きたいとの主催者の願いもあり、合わせて紙上での案内となりました。また、久しぶりの「新年懇親会」も執り行われ、その内容も掲載しております。今回、参加できなかった皆様には、来年は必ずお顔を見せて頂きたいとの願いも込めて紹介させていただいております。

地域会活動、同好会活動もまだまだ控えめではありますが、コロナにめげず活動されている皆さんも見えますので、そんな事例を見付けて掲載し全会員の皆様が花水木鯨城会行事に参加され、健康に元気ですごして頂きたいと切に希望しております

広報委員長 大澤 之夫 (32期 陶芸)

委員 大村 悦郎 (30期 生活A) HP担当 筒井 孝志 (30期 地域A)

桑原 守 (32期 地域A) HP担当 高木 収 (30期 地域B)

今後の行事予定

■名古屋ウィメンズマラソン・ボランティア

日時 令和4年3月13日(日)
(参加者決定済み)

■令和4年度総会・懇親会

日時 令和4年4月13日(水)
10時30分～11時30分 総会
12時～14時 懇親会
会場 ルブラ王山(千種区覚王山通8-18)
懇親会費 5,000円(1人)
申し込み 3月20日までに



次号予告 (予定)

「花水木だより 96号」

封入日 令和4年4月28日(木)

発行日 令和4年5月(3日)(火)

花水木だより 第95号

発行 花水木鯉城会
名古屋市高年大学 鯉城学園
発行日 令和4年2月2日
発行人 会長 小松 憲次
編集人 広報委員長 大澤 之夫